

## 第48回（平成27年度）岡山県三木記念賞及び同助成金受賞者決定 －授与式を挙ります－

### 1 事業の概要及び経過

#### (1) 岡山県三木記念事業

故岡山県知事三木行治氏が受賞されたマグサイサイ賞の賞金を原資として広く一般から浄財を募り、岡山県三木記念事業基金を設け、同氏の業績をたたえとともに、その人間愛に満ち公共奉仕に徹した精神を生かす目的で、地域社会の発展に貢献した者を顕彰し（個人）又は助成する（団体）ものである。

なお、第1回は昭和43年であり、本年度が第48回となる。

#### (2) 受賞者決定までの経過

- ・ 4月13日（月） 実施要領発表
- ・ 5月14日（木） 推薦締切り

<候補者（団体）数>

三木記念賞の部	8人
三木記念助成金の部	5団体

- ・ 7月14日（火） 第1回運営審議会……受賞候補者選考の諮問
- ・ 7月31日（金） 第2回運営審議会……受賞候補者の選考及び答申

### 2 第48回（平成27年度）岡山県三木記念賞及び同助成金受賞者

#### (1) 岡山県三木記念賞（表彰状・メダル及び賞金30万円）

氏名	年齢	役職等
たけだ しゅういち 武 修 一	84	岡山県中小企業団体中央会会長
まつだ ひでき 松 田 英 毅	77	学校法人作陽学園理事長

#### (2) 岡山県三木記念助成金（表彰状及び助成金50万円）

団体名	代表者
公益財団法人 <sup>やのつねた</sup> 矢野恒太記念会	理事長 森田 富治郎

### 3 授与式

- (1) 日 時 平成27年8月31日（月）16時30分から
- (2) 場 所 ルネスホール（岡山市北区内山下1-6-20）
- (3) 出席者 受賞者、知事、議長、過去の受賞者等 約30名

# 三木記念賞

岡山市中区門田文化町

たけだ しゅういち

武田 修一 (84歳)

## 1 主な経歴

昭和30年	3月	慶應義塾大学経済学部卒業
昭和46年	3月	(株)廣榮堂設立 代表取締役社長 (平成20年3月より取締役会長)
昭和52年	6月	岡山県菓子工業組合理事(現在に至る)
平成元年	6月	岡山県観光連盟常任理事(現在に至る)
平成4年	4月	岡山商工会議所副会長
平成9年	6月	全国和菓子協会副会長
平成10年	4月	全国銘産菓子工業協同組合理事長
平成10年	6月	全日本菓子協会理事
平成15年	1月	岡山少年院後援会会長(現在に至る)
平成16年	6月	岡山経済同友会顧問(現在に至る)
平成17年	4月	公正取引委員会独占禁止政策協力委員(現在に至る)
平成18年	4月	全国銘産菓子工業協同組合相談役(現在に至る)
平成19年	1月	岡山県和菓子協会会長(現在に至る)
平成19年	1月	岡山県観光土産品公正取引協議会会長(現在に至る)
平成20年	6月	岡山県菓子工業組合理事長(現在に至る)
平成20年	6月	岡山県中小企業団体中央会理事
平成22年	6月	岡山県中小企業団体中央会会長(現在に至る)
平成22年10月		岡山県信用保証協会理事(現在に至る)

## 2 功績の概要

氏は、31歳で安政3年創業の菓子老舗を継いだ後、昭和41年、岡山市中区藤原にオートメーションの新工場を建設し量産への道を開くとともに、モータリゼーションの到来を予測し、ドライブイン、後楽園及び倉敷美観地区など主要観光地に販売店を増やすことに取り組み、販路拡大による経営強化への道筋をつけた。

昭和47年の山陽新幹線の岡山開業時には、桃太郎伝説で馴染みのきび団子を岡山観光の定番商品として前面に打ち出したほか、昭和63年、瀬戸大橋開通を契機に岡山が観光地として脚光を浴びた際、「水軍餅」の実演販売などを積極的に実施し、岡山の観光振興に大きく寄与した。

また、特別栽培によるもち米の生産に向け御津郡御津町(現岡山市)に農園を設立したほか、昭和51年からはJAとタイアップし、もち米の栽培研究に取り組み、味の向上や安全面での強化に努めた。さらに、氏は岡山の観光土産品として定着したきび団子を全国の子どもたちに楽しんでもらうため、パッケージに桃太郎のキャラクターを施すことを発案し、瀬戸大橋ブーム時には日本漫画界の大御所に、平成5年には世界的な絵本作家にデザインを依頼し好評を博した。

さらに、菓子工業組合理事長としても、菓子業界の発展に大きく貢献するほか、経済界活動にも積極的に参画し、岡山市の都市機能強化、地域経済活性化、産学官連携等に取り組んできた。

また、平成20年6月には岡山県中小企業団体中央会の理事に就任、その後、氏の持ち前の責任感と旺盛な行動力が評価され、平成22年6月に同会長に就任した。

氏は現在に至るまで県内中小企業の振興に邁進するとともに、企業が厳しい経営環境に対応し得るよう、中小企業組合の設立促進に強力な指導力を発揮しており、中小企業組織の活性化に全力で傾注した功績は極めて大きい。

# 三木記念賞

岡山市南区妹尾

まつだ ひでき

松田英毅(77歳)

## 1 主な経歴

- |       |     |   |   |
|-------|-----|---|---|
| 昭和48年 | 7月  | 学校法人作陽学園                                | 理事長(現在に至る)                                |
| 昭和62年 | 10月 | 作陽音楽大学(現くらしき作陽大学)・<br>作陽短期大学(現作陽音楽短期大学) | 学長(現在に至る)<br>※ただし、平成23年4月から25年3月までの期間を除く。 |
| 平成10年 | 4月  | 倉敷市文化振興財団                               | 理事  |
| 平成17年 | 6月  | 倉敷市文化振興財団                               | 副理事長                                      |
| 平成18年 | 4月  | 倉敷市文化振興財団                               | 理事長                                       |
| 平成26年 | 4月  | 倉敷市文化振興財団                               | 顧問(現在に至る)                                 |

## 2 功績の概要

氏は、昭和39年九州大学大学院理学研究科修士課程修了後、東京大学物性研究所文部技官、九州大学理学部助手を経て、昭和47年より作陽音楽大学教授として教鞭を執る。

昭和48年からは学校法人作陽学園理事長に、昭和62年には作陽音楽大学・作陽短期大学の学長に就任した。平成8年には津山市から倉敷市へ大学・短大を移転し、県南・県北に拠点を置き学術振興に尽力した。

くらしき作陽大学学長として、「挨拶、掃除、合掌」を実践目標に掲げ、心を豊かにする「音楽」、命を創る「食文化」、未来を創る「子ども教育」を柱に教育を展開した。また、音楽交流センターを学内に設置するとともに、学内外で年100回を超える演奏会の開催、地域住民への学内の音楽施設の貸出等を行い、地域に開かれた大学として認められている。

さらに、世界最高峰の音楽学校と協定を締結し、国際的に活躍する音楽家の育成に尽力するとともに、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、倉敷芸術科学大学と「文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業」に取り組み、地域の産学官民が連携して公開講座を開催するなど、人材育成や産業振興に努めている。

以上、学長就任以来28年にわたる学校経営を通じて、学術や芸術の振興、人材の育成に努めるとともに、地域文化の向上に貢献した。

また、平成10年には倉敷市文化振興財団の理事、17年には同副理事長に、18年には同理事長に就任し、26年に退任されるまでの16年間、倉敷市の文化振興の舵取り役として、「倉敷音楽祭」では日本各地で育まれた特色ある音楽芸能を招聘し、市民に紹介する地域間文化交流に取り組むとともに、郷土の偉人を顕彰し我が国の伝統文化を振興する目的で囲碁の全国大会「くらしき吉備真備杯こども棋聖戦」を平成22年に立ち上げるなど、市はもとより、県全体の文化レベルの向上に大きく貢献した。

# 三木記念助成金

名 称 公益財団法人 矢野恒太記念会

代表者 理事長 森田 富治郎

所在地 東京都千代田区有楽町1-13-1

## 1 概 要

公益財団法人矢野恒太記念会は、岡山県出身で第一生命保険相互会社創設者である矢野恒太翁が昭和26年に逝去された後、統計や農業振興、社会教育の向上等の業績を顕彰するため、昭和28年3月に設立され、青年農業者に対する表彰事業及び、大学院生や高校生を対象とした奨学金事業を実施している。

青年農業者に対する表彰事業として、農村青年の養成に尽力した遺志を継承して「矢野賞」等を創設し、本県農業の発展並びに社会文化の向上発展に寄与することを目的とする。

- ・「矢野賞」の授与（昭和29年創設、以来61回にわたり203人を表彰）

県内で農業に従事し、研鑽・努力している優秀な青年農業者を表彰

- ・「新三徳賞」の授与（平成10年度創設、以来34人を表彰）

「旧三徳塾」を卒業し、県内農業の進歩等に研鑽・努力している者を表彰

- ・「恒心会」等への活動支援

受賞者組織等への活動助成を通じ、地域農業を支える力強い担い手育成支援（助成金の支給・毎年1回合同で開催する研修会に、農業や経済分野の大学教授、会社役員等を講師として長年にわたり派遣）

## 2 業 績

公益財団法人矢野恒太記念会は、昭和29年に矢野賞を創設して以来、約60年の長きにわたり、本県の農業振興のため青年農業者への表彰事業を行っており、受賞者はその名誉と誇りを胸に、産地・農村のリーダーとなり本県の農業を牽引する中心的な役割を果たしている。

また、新三徳賞の創設や、恒心会等への活動助成を通じ、県内農業者の経営発展や地域活性化に向けた自主的な活動を支援している。

以上のように、当法人の活動は、本県農業を支える人材の育成や地域農業の発展に多大な貢献をしている。